

生涯学習社会における「情報を使う力」

学びを支える図書館

2015年12月15日(火) 松山大学
平成27年度図書館情報学講演会

野末 俊比古(青山学院大学)

1

はじめに

- ▲ 自己紹介
- ▲ 講演の趣旨
- ▲ 講演の構成

2

1. 現代社会における「情報」の意味

- ▲ 情報とデータ・知識
- ▲ 情報とメディア(資料)
- ▲ 民主主義・生涯学習と情報
- ➔ 「情報は力」

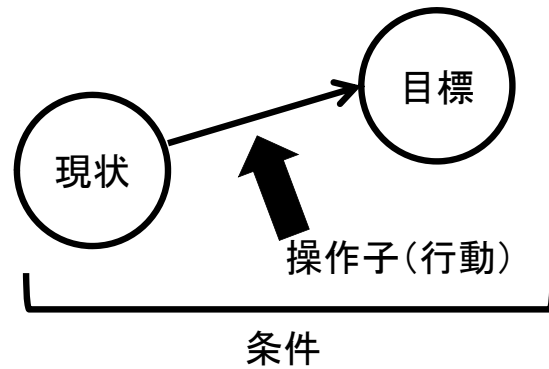
3

2. 「生きる力」としての情報リテラシー 情報活用と図書館による支援

- ▲ 問題解決(意思決定)の能力(生きる力)としての情報リテラシー(IL)
- ▲ IL が「足りない」とき、図書館は……
 - ▲ 習得・向上・維持の機会を提供
 - ▲ 情報活用を直接に援助
 - ▲ 不要な環境を構築

4

【参考】「問題」「問題解決」とは？



5

2. 「生きる力」としての情報リテラシー 情報活用と図書館による支援

- ▲ 問題解決(意思決定)の能力(生きる力)としての情報リテラシー(IL)
- ▲ ILが「足りない」とき、図書館は……
 - ▲ 習得・向上・維持の機会を提供
 - ▲ 情報活用を直接に援助
 - ▲ 不要な環境を構築

6

【参考】IT基本法(2001)

(利用の機会等の格差の是正)

第八条 高度情報通信ネットワーク社会の形成に当たっては、地理的な制約、年齢、身体的な条件その他の要因に基づく情報通信技術の**利用の機会**又は**活用のための能力**における**格差**…の是正が積極的に図られなければならない。

7

3. 「指導サービス」の構築と展開 大学図書館の教育・学修支援を例に

- ▲ 「図書館の使い方」から「情報の使い方」へ
- ▲ 大学図書館における教育・学修支援としての情報リテラシー(IL)教育
- ▲ ひとつの柱として(指導サービス)
- ▲ 「手段」としてのILと「目的(目標)」としてのIL
- ▲ ILとは「学び方を知っていること」

8

(つづき)

- ▲ 本学の事例から
 - ▲ 「情報の探索と表現」コンテスト
 - ▲ 「物理・数理お助け部屋」
 - ▲ 「教養講座」
- ▲ 大学・学部や進路、世代などによる違い
- ニーズ(利用者)の見極め

9

【参考】「ニーズ(needs)と「ディマンズ(demands)」

- ▲ “needs”: 必要
- ▲ “demands”: 要求

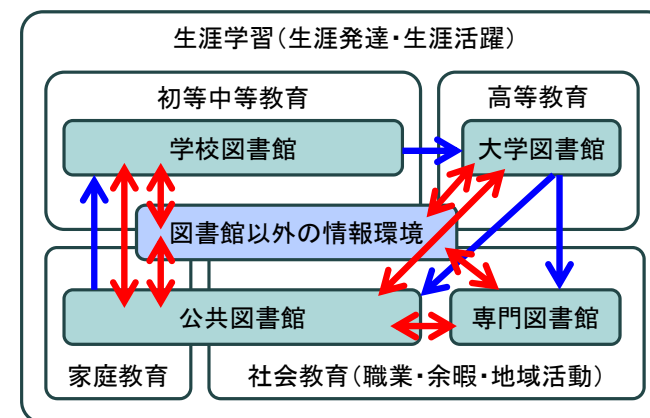
10

4. 生涯学習・発達・活躍と情報リテラシー 図書館の位置づけ

- ▲ 図書館における利用者観
 - ▲ 生涯にわたって種々の図書館を利用
 - ▲ × 何も知らない個人
 - 対話・成長する個人
 - ▲ 図書館以外の機会も利用
- 館種を超えた枠組み

11

生涯学習と情報活用(一例)



12

5. 「情報リテラシーと図書館」を めぐる枠組みづくり

- ▲ 館種を超えた枠組みの必要性
 - ▲ 生涯にわたる情報リテラシーの体系化
 - ▲ 図書館による習得・向上・維持の支援（指導サービス）の体系化
- ▲ 図書館の特徴
 - ▲ 学校図書館……“必ず”利用
 - ▲ 公共図書館……誰でもいつでも
 - ▲ 学校・大学・専門図書館……設置母体の目的

13

(つづき)

- ▲ JLA「図書館利用教育ガイドライン」
 - ▲ 図書館による情報リテラシー教育（指導サービス）の指針
 - ▲ 「自立した情報利用者」の育成・支援
 - ▲ ○「理想追求型」 × 「最低基準型」
 - ▲ 「印象づけ」から「表現・発信」まで
 - ▲ 間接的方法も包含
 - ▲ 総合版と各館種版から構成

14

(つづき)

- ▲ 基準・指針は館種や地域などごとに
 - ▲ 例1……国大図協「情報リテラシー基準」
 - ▲ 例2……鳥取県「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン(案)」
 - ▲ 各図書館がカスタマイズ
- ▲ 基準・指針の基盤としての枠組み

15

おわりに

- ▲ 図書館の“アイデンティティ”
- ▲ 情報リテラシーは活動・対話(学び)のなかでつくられる

16

ありがとうございました

ご意見をいつでも歓迎いたします
tnozue@ephs.aoyama.ac.jp

